

名古屋アイリスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS

～ 世界へのプレゼントになろう Be a gift to the world ～

2015-16 年度国際ロータリー会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン

例会日:毎週水曜日 13:00～14:00

例会場:ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋

創立:2013年6月5日

会長:安井 忠 「楽しく・深く理解するアイリス」



- 斉唱 我等の生業
 - 司会 須賀 祐介 会員
 - 出席者報告 出席者数 28 名 / 会員数 37 名
出席率 75.67%
- 前々回(第122回)修正出席率は91.66%(34/36)

■ ビジター・ゲスト

名古屋北 RC 特別代表 浦野 三男 様

■ ニコボックス報告

安井 忠 会長

インフルエンザが大流行しています。家族、会社の人が流行りにならないよう皆で注意しあいましょう。

三木 恒

無事退院し元気で例会に出席することが出来ました。

後藤 卓朗 会員

愛する妻というよりは鬼嫁がまた1つ歳をとります。憎まれっ子世にはばかる かな？

生田 瀬津子 会員

入会させて頂き誠にありがとうございます。どうぞこれから宜しく願いいたします。

安井 嗣博 会員

2011年3月11日の大震災の際に台湾の方が国民一人当たりになるとニコボックス1回分以上の金額の寄付があったらしいので少しお返しします。

■ 会長挨拶

若い頃どんな人と出会いどんな言葉をかけられるかでその後の生き方が大きく変わることがある。

東芝の創始者・藤岡市助にとっては発明王エジソンと

の出会いがそうです。

1857年現在の山口県岩国市で生まれた藤岡は旧藩主の奨学金を得て東京帝国大学の前身である工部寮電信科に入学エアトン教授に学んでいる。

成績は極めて優秀だったそうで在学中に電信技術の教科書『電信初歩』を書き上げ学校を首席で卒業後工部大学校に残りアーク灯用の発電機的设计製作なども行いました。

藤岡にはこのまま学者として進む生き方もありましたが運命を大きく変えたのは1884年万国電気博覧会のために渡米した際のエジソンとの出会いだったそうです。

このとき藤岡はエジソンに「日本に帰ったら電気事業の創設にわが身を捧げます」と決意のほどを語っているがエジソンはこう返しています。

「日本を電気国にするのは大変良いことだ。だがどんなに電力が豊富でも電気器具を輸入するようでは国は滅びる。日本を自給自足の国にしろなさい」

帰国から2年後の1886年藤岡は東京帝国大学工科助教授の職を辞して東京電燈(東京電力の前身)の設立に尽力「電力が豊富」な国を目指す一方で1890年に白熱舎(のち東京電気から東芝へ発展)を創業本格的な電球製造に着手することになりました。

当初日に数個つくるのが精一杯だったが試行錯誤の末に6年後には日産300個近くつくることが可能になり1905年にはタングステン電球「マツダランプ」を発売エジソンに言われた「自給自足の国」に大きく近づ

いています。

この時期藤岡は「電気の力」を活用した開発をいくつも行っていきます。

1890年第3回国内勸業博覧会で日本初の路面電車を走らせ日本初の高層建築とも言える浅草の凌雲閣に日本初のエレベーターを設置するなど電気の時代の先駆け的事業を手掛けております。

早さや効率だけを追求するなら輸入に頼り他力に依存するのもいいだろう。しかし自前の技術を持たない国や企業ほど危ういものはない。「自給自足の国」を目指した藤岡のような人物がいたからこそ日本は工業国へと成長することができた。

そして究極は発光ダイオード-LEDに繋がっている訳で名古屋大学名城大学で研究された青色LEDが今まさに全世界をリードし電灯の世界では省エネ省エコへとつながっているわけです。

工業では自給自足により輸出国として世界をリードしていますがなにせ日本は食に関して輸入しなければならないし石油等資源は他国に頼っている状態であります。

全てエジソンが言う全ての消費が自給自足になれば一番いいのでしょうか全世界持ちつ持たれつが本音でありますので余り化学が進みますと戦争の無い地球にはなかなかありませんね。

MRJの心臓部が外国製でありこの外国から輸入している物をいかに国内で作るかが今後のMRJの利益に繋がり本当の日本製MRJになるのがいつになるのか日本国民の物作りの根性がここにあります。



■委員会報告

国際・青少年奉仕プロジェクト 竹内祐子委員長

・今後も引き続き理解を深め計画を立てることをします。

・ローターアクトの会員増強について

・RYLAについて

岩崎委員から報告

12月に開催されたローターアクト委員会について

■卓話

お時間をいただきまして、職業紹介を兼ねた自己紹介をさせていただきます。

三つのことを話したいと思います。一つ目は、私が住む蒲郡市の紹介、二つ目は、職場であります蒲郡信用金庫の話、三つ目は、私の趣味の話をさせていただきます。

まず、蒲郡市の話ですが、蒲郡に住んでいる人は、食事やショッピングなどで名古屋を目指して出かけますが、名古屋に住んで見える皆様が蒲郡に行かれる機会は、それほど多くは無いのではないのでしょうか？蒲郡市の位置関係は、名古屋駅から東に約60キロ、愛知県と静岡県との県境の豊橋市からは西へ20キロに位置しています。渥美半島と知多半島に囲まれた三河湾の中央に位置して、温暖な気候の海辺の街で、沿岸一帯は三河湾国定公園に指定されています。市内には4つの温泉地があるほか、愛知県の大規模なヨット施設があり、ヨット競技が頻繁に行われています。マリノレジャーやテーマパーク遊園地・ラグーナテンボスもあり、海と山に囲まれた景勝地であることから県内屈指の観光地となっています。海から山まで車で走れば10分足らずですから、街では海と山がいつも視界に入るといイメージです。

産業面では、温暖な気候を活かしたフルーツ栽培がさかんで、特に「蒲郡みかん」の生産では有名です。夏に収穫する、温室栽培の「蒲郡温室みかん」の出荷量は全国屈指で、東京で有名なフルーツの専門店、千疋屋で夏に店頭で販売されるみかんは蒲郡産です。私が、実際に東京千疋屋で見ましたら、愛知県産と表示していましたが、蒲郡産です。蒲郡という字が読みづらい方がいるのかもしれませんがね。

また、伝統の繊維産業も盛んな時代がありました。「三河

織物」と呼ばれ、織物・繊維ロープ工業が発展した昭和40年代には、市内工業製造出荷額のうち80%近くを占めていました。現在は、工業分野の多様化により繊維工業の比率は下がっているものの、海で使われるロープや陸上で使われるロープなどの繊維ロープ製造業界においては、日本一の生産量を誇っています。

明治時代にも蒲郡の海を題材にしたものがあります。明治時代に作詞された「鉄道唱歌」に蒲郡が登場します。東海道編の30番です。「豊橋降りて乗る汽車はこれぞ豊川稲荷みち。東海道にてすぐれたる海の眺めは蒲郡と。東海道でも指折りの海の眺めと歌われています。

二つ目に私が勤務しています蒲郡信用金庫の話の話をいたします。

全国に信用金庫は北海道から沖縄県まで265の信用金庫があります。

規模イメージを預金量の物差しで見ますと、一番大きい信用金庫は、京都中央信用金庫です。蒲郡信用金庫は大きい方から数えて、27番目です。全国265信用金庫の中で、上位1割の中に入っている感じです。愛知県では信用金庫が15金庫あり、規模では上位から5番目です。東三河では一番預金量の多い大きい信用金庫となっています。

開業は、昭和23年4月ですから、この4月で68年となります。店舗は蒲郡10店舗、豊橋17店舗、豊川6店舗、岡崎4店舗、田原市3店舗、静岡の湖西市にも1店舗と合計で約50店舗となっています。

私が在籍する東郊通支店は鶴舞公園の南1キロのところに位置しています。店は昭和38年に開店し52年余の歴史のある店舗です。名古屋には合計3店舗あります。従業員は約1,000人です。

私が蒲郡信用金庫に就職し初めての勤務は本店営業部でした。営業店のお客様係を担当して、その後融資担当も経験し、38才の時、信用金庫ではまず単身赴任はありませんが、東京で半年間、信用金庫の上部団体である、信金中央金庫の総合研究所で金融の研究をしていました。

その後は、営業店から本部の経営企画部で5年、43才

で支店長となり5年間、支店長を勤めまして、その後、前部署である、資金運用部の部長として5年、昨年10月から現在の東郊通支店長として、名古屋の店舗全体を監督する立場も兼ねる仕事となりました。仕事の内容は、金融業ですから、ご想像の通りの仕事です。金融業ですからお金を動かすことが商売ですが、それは、お客様の経営の一部でしかないのではないかと考えています。お客様の事業方針、商品戦略、事務や管理の体制、営業のあつ旋、工場立地のあつ旋、海外戦略のアドバイスなど、ご商売の厳しい昨今では、特にお客様の企業を取り巻くグランドの話ができるように、企業内容を十分に知ることと、私自身が常に最新の知識を吸収し続けることが一番であると思っています。

最後に私の人物像ですが、一言で表せば、何事も全力で走るといった感じで、プライベートでは、まず自分でいろいろなことに挑戦することが好きです。

たとえば、オートバイは、18歳から乗り始め15台乗り継いでいます。今も時間をみつければ、オートバイ2台と世界で一番売れているホンダ・スーパーカブが1台に乗っています。20歳のころは、鈴鹿サーキットのレーシングコースを走行したり、モトクロスレースに出場したり、日本中、テントを積んで、景色のいい場所をみつければ、野宿しながら回りました。初めての長旅は、18才、九州一周に行きました。阿蘇、大平原の草千里で一晩寝たり、九州最南端、鹿児島佐多岬で寝たり、北海道の最北端で寝たり、岩手県以外の県は走破しました。国道1号線、2号線と、いつも高速道路を使わず、国道のみの旅が今でも好きです。昨年7月にもNHKで能登半島の「きりこ祭り」を放映していて、よし明日の早朝にでかけるぞと、朝4:00にテントをオートバイに載せて、これまた国道をひた走り、岐阜、富山、石川、福井県と一人で能登半島を一周してきました。迫力ある「きりこ祭り」を堪能できました。今一番時間を使っている趣味は、40歳から始めたトライアスロンを14年間続けていて、運よく年々順位を上げてきて、昨年は、1000人参加の愛知県伊良子大会で年代別で8位入賞できました。これは嬉しかったです。回りからはお金を払ってまで、辛いレースをなぜするのと言われますが、自分自身へのあきらめない挑戦が気に入

っているようです。海を泳ぐので本州では6月から9月までの開催期間ですが、今年も愛知県での初大会は6月25日の蒲郡トライアスロン大会です。参加選手は1000人規模で、日本代表オリンピック選手も参加する世界選手権も開催されます。3月からは本格的にトレーニングします。フルマラソンや駅伝に出たり、とにかく落ち着きがないとも見えるほど、いつも動き回っていることが好きな性格のようです。

ご縁あって、ロータリークラブに入会させていただきました。ロータリークラブの方々は、それぞれ社会的にも責任ある立場の方々に、みなさん理想を掲げて、日々努力をされて見えるかたばかりです。

わたしも、ロータリークラブで出会えた方々の、「理想に近づける努力」を手本として、経験や知識を積んで成長して参りたいと思っています。

私が話す内容ですので、時間つぶしの話であったとは思いますが、

お聞きいただきまして、ありがとうございました。

以上